

2020年9月20日(日)／説教者：國分美生

説教：「照らすために輝く」

聖書：マタイによる福音書5:13～16

アメリカで起きたアフリカ系アメリカ人公民権運動において、運動を象徴する歌として「this little light of mine」(私のこの小さな光)という歌が歌われました。ヨーロッパから移民がアメリカ大陸に渡ってきた時、先住民族は武力で追放され、また白人に奉仕するための奴隷としてアフリカから人々が強制的に連れてこられました。何百年と続く苦しみと貧困の歴史の中で、彼らの歌であるブルースやゴスペル、黒人霊歌がたくさん生まれました。

この歌はマタイ福音書の5章14節以下がモチーフです。そこは「山上の説教」とも呼ばれ、苦痛に悩み、差別を受けるような病気を負っていた、この世においては恵まれているとは言い難い人々へのイエスの励ましの言葉です。イエスは私たちを「世の光」と呼ばれます。「世の光」と言えばイエスご自身が自分を「世の光である」(ヨハネ福音書)と言っていますから、人間がそのように呼ばれるのはふさわしくないように思えます。ですが自分が「世の光」であることを信じる。それが信仰であり、そこからすべてが始まっていきます。

ともし火は家の中にいるすべての者を照らす一聖書の言葉通り、公民権運動は黒人たちの抵抗運動だけでは終わりませんでした。人間らしい人生を取り戻そうと声を上げ、傷つきながらも行動する黒人たちに共感して、同じように白人男性から支配を受けていた多くの白人女性たちが仲間となり、女性解放運動へとも連動していきました。肌の色や、性別で差別されることなく、すべての人が平等な者として、自由を獲得し、権利を確保すること。神ではなく、人間に過ぎない者の束縛からの解放。すべての抵抗運動のその目指すところに共通点があるのは、差別はすべて根底でつながっていることを証明しています。

公民権運動が起こった時期、沖縄でも黒人の米兵たちによるデモや抗議が起こりました。沖縄の人々は深い共感をもってそれを見ていたこととおもいます。そのこととおそらく関係しているでしょう。米軍による沖縄県民への人権侵害に対して1970年に起きた、いわゆる「コザ暴動」の時、群衆は白人の車だけひっくり返して、黒人の車には手を付けなかったそうです。

私たちは自分自身が神からの力を受けて光り輝くともし火であると信じることができた時、真に、隣人を自分と同じように、イエスが愛しておられるともし火であることを信じる事が出来るのかもしれませんが。それは平和を創り出すうえで大事なプロセスです。(國分美生)